

令和8年度（2026年度）第1期募集

大学院総合学術研究科 修士課程入学者選抜試験 試験科目「臨床心理学」

解答例

問1

設問1)

- ・強制わいせつ罪・強制性交等罪における「暴行」・「脅迫」要件，準強制わいせつ罪・準強制性交等罪における「心神喪失」・「抗拒不能」要件の改正
- ・性交同意年齢の引上げ
- ・身体の一部又は物を挿入する行為の取扱いの見直し
- ・配偶者間において不同意性交等罪などが成立することの明確化

設問2)

性的行為をするかどうかを考えたり，決めたりするきっかけや能力が不足していて，性的行為をしない，したくないという意思を持つこと自体が難しい，性的行為をしない，したくないという意思を持つことはできたものの，それを外部に表すことが難しい，性的行為をしない，したくないという意思を外部に表すことはできたものの，その意思のとおりになることが難しい状態

設問3)

- ・暴行若しくは脅迫を用いること又はそれらを受けたこと
 - ・アルコール若しくは薬物を摂取させること又はそれらの影響があること
 - ・虐待に起因する心理的反応を生じさせること又はそれがあること
 - ・経済的又は社会的関係上の地位に基づく影響力によって受ける不利益を憂慮させること又はそれを憂慮していること
- など

問2

設問1)

動機づけ操作とは、一部の刺激、事物、事象の強化の有効性、または弱化の有効性を変更し（増加させるか減少させ）、その刺激、事物、事象によって強化され、または弱化されていたすべての行動の現在の頻度を変更する（増加させるか減少させる）手続きを指す。

代表的な動機づけ操作に、確立操作（Establishing Operation）と無効操作（Abolishing Operation）が挙げられる。確立操作とは、一定の刺激、事物、事象の強化の有効性を強める動機づけ操作を指し、例えば、食物遮断（遮断化）が挙げられる。無効操作とは、一定の刺激、事物、事象の強化の有効性を弱める動機づけ操作を指し、例えば、食物摂取（飽和化）が挙げられる。

設問2)

自分の考えや期待に合う事例（正事例）ばかりを生成したり収集したりすること

設問3)

- ・同一の個人に対して同一の条件のもとで同一のテストを繰り返し実施したとき、一貫して同一の得点が得られる程度を、テスト得点の（ 信頼性 ）とよぶ。
- ・ある要因と従属変数の関係が、別の要因の水準によって異なることを（ 交互作用 ）とよぶ。
- ・複数の生理指標を同時に測定する検査を（ ポリグラフ検査 ）と呼ぶ。
- ・同一の参加者（被験者）が複数の条件を適用されるとき、順序が後ろの条件で測定した従属変数に、練習、順応、疲労などが影響してしまうことを（ 順序効果 ）とよぶ。
- ・参加者同士が本音を語り合うなかで、自己理解や他者理解を深めながら自己成長をめざすグループを（ エンカウンターグループ ）とよぶ。

問3

設問1)

- (1) ①②については、順番は不問 共感的理解、自己一致（純粋性）
- (2) ③論理療法 ④ABC
- (3) ⑤エゴ ⑥スーパーエゴ
- (4) ⑦防衛機制 ⑧アンナ・フロイト
- (5) ⑨ベイトソン ⑩ダブルバインド

設問2)

・模範解答

本事例のAは、会議での失敗体験を契機に発言に対する強い不安と回避行動が生じており、この回避が不安を維持させていると考えられる。そのため、行動的アプローチを中心に介入を行う。具体的には、不安階層表を作成し、少人数の打ち合わせでの発言など、不安の低い状況から段階的に発言の機会を設ける「段階的エクスポージャー」を実施する。また、「発言すればまた厳しく非難される」というAの否定的な予測を検証するため、事前に安全を確保した上で会議で短い意見を述べ、実際の反応（結果）を確認する「行動実験」を行う。これらの介入により「発言しても致命的な結果にはならない」という新たな学習を促し、回避行動の低減を図る。必要に応じて、「完璧に準備しなければならない」といった否定的認知に対して認知再構成法を併用することも有効である。

・解答の指針

会議中に発言することの安全を確保した上で、Aが予想される結果を確認し、実際に発言を行い違いを確認するような行動実験や、目上の人前で段階的に発言を行うエクスポージャー法について述べられていれば加点。否定的認知に対する認知再構成については、部分点とする。

問4 選択問題

問題1

設問1)

- ・子どもの問題行動が主訴であっても、来談した者は保護者であるため、保護者を主体として支援を行っていく必要があること
- ・癩癩が起こる前後の環境変化

など

設問2)

- ・論文の適格基準・除外基準
- ・PubMedなどの検索エンジンの情報
- ・検索用語

など当該分野の文献を包括的にレビューする手続きが書かれていること

問題2

設問1)

教育・保育施設等やこどもが活動する場（放課後児童クラブ，学習塾，スポーツクラブ，部活動など）等において働く際に性犯罪歴等についての証明を求める仕組み

設問2)

説明

例) 身体のバランスがうまく取れず，自分の体なのにうまく扱えない，よく転ぶ，タイミングよく動けないことや，細かい力加減ができず，左右の手指や見え方と動作の大きさを調整することが苦手で，書字や工作・制作作業，はさみ，楽器などの道具使用に困難がみられる状態

問題や困難

例) 特性により文字を書くことに大きな苦手さがあり，答えはわかっているのに計算ドリルが進まなかったり，うまく書けない自覚があるため，何度も書いては消すのを繰り返すことで，授業内容から遅れ，学業成績が低下したり，さらには不登校につながるものが考えられる。

設問3)

背景

自殺死亡率は低下する中，女性の自殺者数は増加しており，特に妊産婦やコロナ禍における女性の雇用問題が深刻化したことなどが背景に挙げられる。

支援

例) 予期せぬ妊娠などによる身体的・精神的な悩みや不安を抱えた若年妊婦の相談支援強化，産後うつ予防を図るための家庭訪問支援，子育て中の女性などを対象としたマザーズハローワーク事業

問題3

設問1) 考察は誤り。

ここで著者が行っている考察における判断は一元配置分散分析における有意差の有無をもって仮説に

ついて短絡的な判断が行われていることから誤りである。

回答指針としては、一元配置分散分析の解釈の誤りに気づけているか（多重比較が行われていないから、どの群とどの群に差があるかはわからないこと）と、差の大きさが、意味がある程度のものかについて効果量などを参考に検討されているかを問う。

設問 2) 考察は正しい。

交絡変数の指摘がなされていること。問題文における研究者の考察は、実験における交絡変数の可能性を指摘しており、科学的な態度として適切である。参加者の音楽の好みは、集中力に影響を与える可能性のある要因であり、今回の実験デザインでは十分に統制されていない。

因果関係の断定に関する注意については、今回のように単一の実験結果だけで因果関係を安易に断定することは避けるべきである。特に人間の行動や認知は複雑であり、**内的妥当性**や**外的妥当性**を慎重に検討する必要がある。研究者の解釈は、実験デザインの限界や潜在的な影響要因を認識している点で、科学的かつ倫理的な姿勢を示していると考えられ、正しい判断と言える。